

令和4年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金（慢性の痛み政策研究事業）
分担研究報告書

痛みセンターを中心とした慢性疼痛診療システムの均てん化と
診療データベースの活用による医療向上を目指す研究

研究分担者 中本 達夫 関西医科大学麻酔科学講座 診療教授

研究要旨

本年度より新規に本研究に参画することから、既存の痛みセンターにおける診療システムを本研究に合致する形への改変を実施し、次年度初めより患者情報収集が実施可能な体制整備を行なった。また、より多くの慢性疼痛患者に対応できるよう、痛みセンター構成診療科の拡充を実施した。さらに、治療手技の均てん化に資する多施設で共有可能な治療手技学習システムの構築を試みた。

A. 研究目的

我が国における慢性痛及び難治性疼痛に対する集学的医療の有効性と必要性を明らかにするために、現在日本で集学的医療を行っている機関と協力して、難治性疼痛および慢性痛に対する集学的医療の介入効果を多面的に定量する研究を立案する。

B. 研究方法

平成24年6月1日以降に難治性疼痛および慢性痛に対する集学的医療を実践している愛知医科大学病院及び共同研究機関の疼痛外来を受診した患者を対象とする。診断名（ICD-11）、従来の臨床診療で用いられている疼痛、健康関連QOL、抑うつ、ADL 他に関する問診について、初診時および初診3ヵ月後・6ヶ月後・12ヶ月後に施行された結果を後ろ向きに探索的に比較検討する。なお、診療時に問診が理解できないまたは問診票への記載を拒否した患者は除外とする。

問診票は、痛みのつよさの評価として簡易疼痛調査用紙（brief pain inventory :BPI）、痛みと活動性に関する評価として疼痛生活障害評価尺度（Pain Disability Assessment Scale: PDAS）、心理的ストレス評価尺度としてHospital Anxiety and Depression Scale: HADS（日本語版）、痛みの影響に関する評価として痛み破局化尺度（Pain Catastrophizing Scale: PCS 日本語版）と痛み自己効力質問表

Pain Self-Efficacy Questionnaire: PSEQ、健康関連QOLの指標としてEuroQol-5D（EQ-5D）日本語版、不眠評価としてアテネ不眠尺度、中枢性感作評価として日本語版 Central Sensitization Inventory:CSI 日本語版、家

族に及ぼす影響として Zarit 介護負担尺度、医療保険点数、運動機能評価としてロコモ25などを用いる。

各施設で取得したデータは当該個人情報に含まれる記述等の一部を削除し仮名加工情報とした後に、愛知医科大学医学部学際的痛みセンターに集約して分析を行う。

（倫理面への配慮）

今年度は患者情報の収集準備であり、倫理面への配慮は不要であった。また、治療手技記録システム構築・痛みセンター参画診療科拡大についても患者情報を扱うことはなく倫理面への配慮の対象外である。

C. 研究結果

本施設の、既存の診療システム（初診時質問票）を本研究に合致する形への改変を実施し、令和5年度はじめからの速やかな情報収集体制を整えた。

また、痛みセンターとしての治療手技の均てん化に役立つインターベンション治療手技の共有に有効な、没入感を伴う治療手技学習システムの構築を講座スタッフを模擬患者として試み、VR学習素材としての活用の可能性を得た。

さらに、様々な慢性疼痛を有する患者に痛みセンターがより柔軟に対処可能とすべく、リウマチ科の痛みセンター参入を実現し、ペインクリニック科、心療内科、整形外科、リハビリテーション科、歯科・口腔外科、精神科、健康科学科（予防医学）、リウマチ科の9診療科に拡充された。

D. 考察

令和3年から継続中であった別研究で使用していた質問紙と本研究質問紙の内容に差異があったことから、本年度は本研究での質問紙の内容を網羅する形への問診票の内容改変を実施した。改変作業を年度内に行うことで、令和5年度はじめより研究実施許可の取得が得られたことから、次年度初めより原則、全初診患者を対象に、患者情報の取得が可能となった。

また、360°カメラを用いた治療手技記録により、VRゴーグルを使用することで、没入感のある手技学習システム構築が可能となると考えられた。これにより、協力施設間での治療手技のバラツキを抑制し、より均てん化された治療を全国で実施可能となると考えられた。

E. 結論

診療データベース登録の準備としての問診票内容の改定を行なった。

360°カメラによるインターベンション手技の記録は治療手技均てん化に役立つ可能性がある。

新たに痛みセンターに参画する診療科の拡充を実施し、より多彩な慢性疼痛患者に対して対応可能な環境を構築した。

F. 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

- 1) 中本達夫：超音波ガイド下神経ブロックの適応・方法・留意点. 日本ペインクリニック学会第56回学術集会 2022/7/7 東京国際フォーラム（東京都）

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし